



ナシ黒星病の発生に注意!!

～早期発見、早期防除の徹底を～

例年、梅雨期を中心に、ナシの難防除病害である黒星病が発生・蔓延しやすくなります。ナシ黒星病は、葉や果実、果そう基部などに黒いすす状の病斑をつくります。そこで形成された分生子が、降雨の時に分散して二次伝染を繰り返します。

病害虫発生予報 6 月号（県病害虫防除所）によると、**今年のナシ黒星病の発生は、5 月下旬現在、発病葉率（本年 0.6%、平年 0.2%）、発生地点率（本年 26%、平年 19%）、発病果そう率（本年 0.2%、平年 0.3%）、発生地点率（本年 16%、平年 28%）と平年並～やや多い発生となっております。**



葉柄上の病斑

ナシ「幸水」の果実に対する黒星病の感受性（病気にかかりやすい状態）は、幼果期（開花直後から 20 日後頃まで）と、開花後 55 日後頃から 90 日後頃の 2 回高まることが知られています。

このため、地域により若干異なりますが 6 月上旬頃～7 月中旬頃までが 2 回目の感受性が高まる期間にあたりますので、この間は薬剤の散布間隔が 10 日以上空かないように注意して、効果の高い薬剤を確実に散布してください。



果実（幼果）での被害
（写真：病害虫防除所）

なお、向こう 1 か月の気象予報（5 月 25 日発表）では、「期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温は平年並または高い確率ともに 40%ですが、降水量は平年並または多い確率ともに 40%、日照時間は平年並または少ない確率ともに 40%」と予想され、**黒星病の発生をやや助長する条件と考えられるため、十分な注意が必要**となります。

防除のポイント

- 1 **必ず、発病した葉や果実、果そう基部などを除去し、土中に埋めるなど適切に処分した後に薬剤散布を行う。**
- 2 令和 5 年版露地赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例等に従って薬剤散布する場合は、ナシの生育に合わせて散布時期を調整し、防除適期を逃さないようにしてください。
- 3 SSによる薬剤散布にあたっては、10aあたり 250ℓ+補正散布 50ℓを目安に十分な薬量で、**かけむらの無いよう園内を縦横に走行して丁寧に散布してください。**なお、**圃場の周縁部など薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行うことが重要**です。

表 1 令和 5 年版 露地赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例（茨城県）より 6～7 月の殺菌剤防除（殺菌剤のみ殺虫剤除く）

防 除 時 期	防 除 薬 剤	希 釈 倍 数	分 類
（6 月上旬）	オキシラン水和剤	600 倍	M1 と M4
（6 月中旬）	カナメフロアブル	4,000 倍	7
（6 月下旬）	キャプレート水和剤	600 倍	1 と M4
新梢発育停止期（7 月上旬）	ストロビードライフロアブル	3,000 倍	11
（7 月中旬）	アンビルフロアブル	1,000 倍	3
	ベルコートフロアブル	1,500 倍	M7

注）分類欄には、FRAC コードを記載しました（コードが 2 つは混合剤）。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は JA 全農いばらきホームページでもご覧になれます。